

## 2003 年度 委員会活動成果報告

( 2004 年 3 月 31 日作成 )

委員会名	都市形成・計画史小委員会	主 査 名：安田 孝
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：佐藤 滋
設置期間	2001年 4 月 ~ 2005年 3 月	
設置目的 各年度活動計画	広く都市形成・計画史に関わるテーマを取り上げ、公開研究会を開催し、大会時に研究会等を企画・運営する。2003年度には公開研究会と大会時のオーエスセッションを実施する。	
委員構成 (委員名(所属))	安田孝(摂南大学) 宇杉和夫(日本大学) 木多道宏(大阪大学大学院) 川嶋智生(大阪府立今宮工業高校) 加藤仁美(東海大学) 中川理(京都工芸繊維大学大学院) 諫見康彦(福岡市立博多工業高校) 熊野稔(徳山工業高等専門学校) 佐々木日嘉里(花園大学) 陣内秀信(法政大学) 鈴木栄基(岩見沢市役所) 砂本文彦(広島国際大学) 瀬口哲夫(名古屋市立大学大学院) 野中勝利(筑波大学大学院) 和田幸信(足利工業大学)	
設置WG (WG名:目的)	日本近代都市形成・計画史比較検証WG 20世紀における日本の都市計画の遺産と課題を明らかにするため、近代都市形成・計画史に関する比較検証をおこなう。	
2003年度予算	260,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003年9月6日 小委員会・ワーキング委員会を同時開催(12名参加) 2003年12月13日 同上 (9名参加) 2004年3月12日 同上 (11名参加)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2003年12月13日に公開研究会「都市再建プランの国際比較 日英比較を主として」及び2004年3月12日には公開研究会「日本の郊外 その原型と変容」を開催し、それぞれ30数名の参加者で都市形成と都市計画に関する社会的背景と技術に関する重要な意見交換を行い、知見を深めた。その研究会の成果は資料集「第11回都市形成・計画史公開研究会 日本の郊外 その原型と変容」(第10回公開研究会記録を含む)として公開し、学術的・技術的資料として提供している。</p> <p>また、ワーキンググループの活動成果として「日本の近代都市形成・計画史の比較検証研究 都市計画の遺産と課題に関連して」(代表者石丸記興 平成14年度科研費実績報告)を公表し、最終報告を作成中である。</p> <p>さらに、2003年度学会大会にはオーエスセッションの実施を担当した。以上の最近の成果については、ホームページ掲載の準備中である。</p> <p>委員会 HP アドレス：<a href="http://www.mr-isami.com/aij/">http://www.mr-isami.com/aij/</a></p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 小委員会・ワーキング委員会の活動回数については大体の目標を達成し、公開研究会開催やオーエスセッションの実施による資料収集と公開にも不足はない。目標の達成度は高いと考える。
その他評価すべき事項	この2年間では、金沢、名古屋、下関、大阪などの東京以外での公開研究会も実施し、地域での学会活動の活性化に寄与していると考えます。